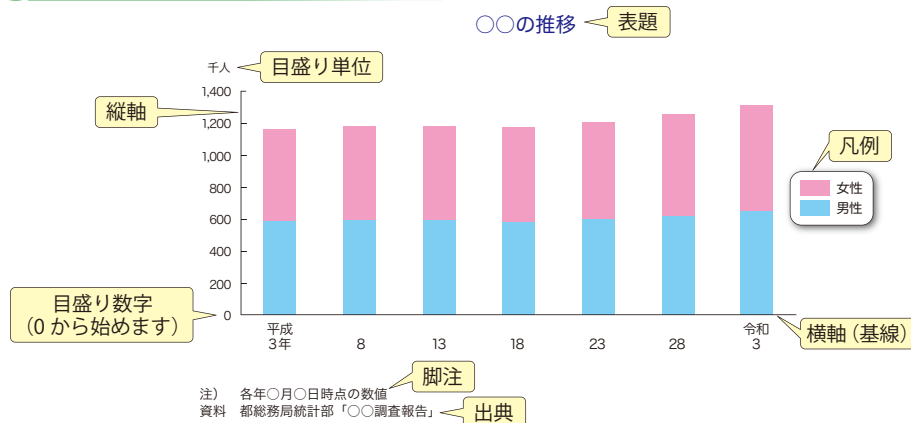


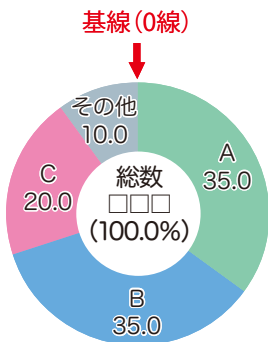
1 グラフの基本構造



2 グラフの見方

(1) 項目の並び順

- ①項目に並べる決まりや慣例がある場合は、それに従って並べています。
ア. 産業では、農業、林業、漁業、鉱業、…（日本標準産業分類）の順に並べます。
イ. 都道府県では、北から南に向けて、北海道、青森県、岩手県、…の順に並べ、東京都は13番目になります。
- ②特に決まりや慣例を必要としない場合は、大きいものから小さいものに並べ、「その他」を最後に設定します。また、古い年次から新しい年次へと並べます。



(2) 総数に対する内訳(構成比率)を表す場合

円グラフで円全体を100%として、いくつかに分割し、それぞれの内訳面積の大きさによって数値を表します。実数を記載する場合は、ドーナツグラフにし、内円に記載します。ドーナツグラフは内円に「%」を表示するので、外円には「%」を表示しません。

(3) 数値の差が少ないか、又は差が非常に大きい場合

グラフの目的に応じて省略記号(波線等)を挟み、差を強調しています。波線を用いて省略した部分が大きいほど、実態とかけ離れたグラフになっているため、読みとる際には注意が必要です。

3 グラフの種類

種類	特徴
① 単純比較グラフ (単位グラフ・面積グラフ・体積グラフ・棒グラフなど)	2つ以上の数量間の差や比、大小の順序などを比較・観察するときに適しています。
② 線グラフ (折れ線グラフ・レーダーチャートなど)	数量の時系列 ^{注)} 変化を観察するときに適しています。
③ 百分比グラフ (円グラフ・帯グラフなど)	構成比率の観察に適しています。
④ その他 (相関グラフ・度数分布グラフなど)	2種類のデータの関係やデータの散らばり具合を見るのに適しています。

注) 時系列とは、時間の経過に沿って並べることです。

利用上の注意

(1) グラフで用いているデータ

特に明記がない場合は、東京都の数値です。

(2) 総数を見る際の注意

- ・構成比を表す円グラフや積み上げ棒グラフの内訳は、小数点第1位まで表示してあります。そのため、端数処理の関係で、内訳の和が100%にならない場合があります。
- ・数字の単位未満は、四捨五入することを原則としています。したがって、合計の数字と内訳の計とが一致しない場合があります。